

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

総合診療内科(感染症)(2～9ヶ月)

1 目的と特徴G I O

- 1) 各種感染症コンサルテーションを行う中で、一般感染症の診断、治療法を研修する。
- 2) H I V診療について研修する。
- 3) 院内感染対策の概要について研修する。
- 4) グラム染色等の基本的な微生物検査について理解する。
- 5) 微生物学および感染症の病態整理について理解を深める。
- 6) 感染症専門医取得のための基礎を身につける。

2 プログラム管理運営体制

感染管理部にて、本プログラムの管理運営を行う。必要に応じて微生物・感染症学講座の教員による指導を求める。

3 教育課程

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は2～9ヶ月である。東邦大学医療センター大森病院感染管理部に配置され、感染症コンサルテーション診療に主として従事し、H I V診療、院内感染対策に関しても学習する。

3-2 到達目標

- 1)
 1. 感染症診断・治療学の研修
 - ① 各臓器別感染症の主要起炎菌について知識を深め、実際の症例において適切な鑑別診断を挙げる事ができる。
 - ② 診断に至るための検査計画を立てることができる。
 - ③ グラム染色を適切に判断することができる。
 - ④ 培養検査、抗原検査、遺伝子検査、血清学的検査について理解を深め、結果の解釈を正しく行うことができる。
 2. 感染症治療学の研修
 - ① 各種抗菌薬の特徴を理解する。
 - ② 各種感染症に対し適切に抗菌薬を選択することができる。
 - ③ PK/PDに基づいた抗菌薬療法を計画することができる。
 - ④ 治療効果判定を行う事ができる。
 - ⑤ 免疫不全宿主に特徴的な感染症について理解を深める。
 - ⑥ 各種耐性菌の病態生理を理解し、治療を計画する事ができる。
 - ⑦ 菌血症の診断、治療について理解を深める。
- 2) H I V診療の研修
 - ① H I Vの病態について理解する。
 - ② H I Vの治療法について理解を深める。

③ HIVに随伴してみられる日和見感染症について理解を深め、予防・治療法を学ぶ。

3) 院内感染対策の研修

① 標準予防策および感染経路別予防策に基づいた院内感染対策が適切に行えるようになる。

② 院内における耐性菌対策を学ぶ。

③ 院内アウトブレイクに対する対応を学ぶ。

④ 院内感染症（VAP、BSI、UTI）について理解を深める。

4) 微生物・感染症学の研修

① 微生物学に基づいた感染症の病態整理を理解する。

3-2-2-A 経験すべき診察法、手技

1) 問診にてROS（Review of system）を行い、可能性のある感染症を考えることができる。

2) 身体診察にて可能性のある感染症を絞ることができる。

3) グラム所見を評価できる。

4) 培養検査、抗原検査、遺伝子検査、血清学的検査の結果の解釈を正しく行うことができる。

3-2-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

1. 敗血症

2. 血管内感染症（カテーテル由来血流感染症、化膿性血栓性静脈炎など）

3. 感染性心内膜炎

4. 肺炎

5. 尿路感染症

6. 腸管感染症

7. 骨関節感染症

8. 膿瘍

9. 不明熱

10. 皮膚軟部組織感染症

11. HIV感染症

12. 性感染症（梅毒など）

13. 結核

14. 寄生虫症

15. 熱帯感染症

16. 免疫不全宿主における感染症

17. 薬剤熱

3-2-2-C 特定医療現場の経験

1. 微生物検査室における受け持ち患者のグラム染色標本の観察

2. 血液培養陽性患者への介入

3. 耐性菌検出患者への介入

4. 抗菌薬長期投与患者への介入

5. 救命センターにおける重症感染症の経験。

3-2-3 評価基準

感染症診療における基礎的スキル（グラム染色診断、感染症診断、治療計画、治療評価）が習得されたかを基準として評価する。

3-3 勤務時間

原則として東邦大学医療センター大森病院の規程に従う。

3-4 教育行事

月曜	8時～ 救命救急センターカンファレンス 14時～ 感染症カンファレンス（微生物・感染症学講座において行う。研修医が症例プレゼンテーションを行う） 15時～ HIVカンファレンス
火曜	8時～ 微生物カンファレンスおよび文献紹介 10時半～ ICT ラウンド 16時～ 抄読会
水曜	13時～ 感染症外来
木曜	9時～ 感染管理部部会 13時～ 検査部カンファレンス

3-5 指導体制

主として感染管理部部員が指導に当たるが、より専門的知識に関しては微生物・感染症学講座の教員に指導を仰ぐ。最終的な責任指導は感染管理部部長が担う。グラム染色等の検査技術に関しては、微生物検査室の協力を受ける。

4 研修医個別評価

プログラム修了時に、評価基準をもとに指導医が総合評価する。各種教育行事への出席状況、カンファレンスでの症例発表も評価の対象となる。